

「釧路湿原生態系維持回復事業計画」における目標の具体化に向けた検討

【釧路湿原生態系維持回復事業計画の目標】

ラムサール登録以前の状態（＝1980年代初頭の植生の状態）

本事業では、順応的管理の考え方に基づき、対象地域におけるエゾシカの適正な対策を推進するため、「植生」及び「エゾシカの生息状況」に関するモニタリング調査を計画的、継続的に実施する。

植生調査の結果については、本計画の目標である「1980年代初頭の植生の状態」として設定した数値目標により評価することを目指す。本計画期間（第1期）においては、既往の調査結果及び本計画によるモニタリング結果等を基に、植生指標を決定することを目指す。また、その状況を踏まえつつ、数値目標及び評価手法等に係る検討を計画的・段階的に進める。

【実施計画（第1期）第4章モニタリング及び評価より抜粋】

1) 植生

○1980年代の植生の状態把握

- 1980年代初頭の当時の植生が伺える植生図として1975年の植生図があり、近年（2005年）の植生図との比較では、エゾシカの影響による植生遷移の判断はできない。1980年代初頭から現在までの植生の変遷は、エゾシカの影響のほかに治水事業、土砂流入、自然遷移等の要因が入った結果である。このため、1980年代初頭の植生の状態まで回復させることは、エゾシカ対策だけでは、実現が困難であると考えられる。
- 植生調査の報告書としては、1975年釧路市立郷土博物館、1992年（調査は1989年）伊藤浩司編がある。1975年、1989年調査データと当該調査結果の比較からエゾシカの影響を強く受けた結果、減少した可能性がある種が見られる。

⇒1980年代からシカの影響を受けて減少したと思われる種を抽出し、1980年代注目種として事業評価の指標に追加する。次表に1980年代注目種（案）を示す。今後さらに抽出条件を精査し、選定作業を進める。

■高層湿原 1980年代注目種（案）

表1 1980年代頃に出現していた種のうち本事業で確認されない種（高層湿原）

高層湿原 1980年代注目種（案）	1980年代当時 出現頻度 (資料※)	出現する環境 (資料※)	重要種（指定植物、 環：環境省 RL、 道：北海道 RL）
ミツバオウレン	普通	カラフトイソツツジ-チャミズゴケ群集	指定植物、-、- 指定植物、
ヒメツルコケモモ	少ない	カラフトイソツツジ-チャミズゴケ群集	環：絶滅危惧Ⅱ類、 道：絶滅危惧Ⅱ類
ヒオウギアヤメ	少ない	カラフトイソツツジ-チャミズゴケ群集、イ ワノガリヤス-ヨシ群集	指定植物、-、-
サワラン	少ない	カラフトイソツツジ-チャミズゴケ群集	指定植物、-、 道：絶滅危急種
ホソバノキノチドリ	少ない	カラフトイソツツジ-チャミズゴケ群集	指定植物、-、-

※田中瑞穂, 1975, 釧路湿原の植生、伊藤浩司・松田行雄, 1992, 植物群落と泥炭層の解析 より編集。種名一部修正。

■低層湿原 1980年代注目種（案）

表2 1980年代頃に出現していた種のうち本事業で確認されない種（低層湿原）

低層湿原 1980年代注目種（案）	1980年代当時 出現頻度 （資料※）	出現する環境 （資料※）	重要種（指定植物、 環：環境省 RL、 道：北海道 RL）
ヒメイチゲ	普通	イワノガリヤス群集	指定植物、-、-
エゾネコノメソウ	普通	ヨシ-スゲ類群集	-、-、-
クロバナロウゲ	少ない	イワノガリヤス-ヨシ群集	指定植物、-、-
エゾリンドウ	少ない	カラフトノダイオウ- エンコウソウ群集	指定植物、-、-
ミツガシワ	普通	ヨシ群集	指定植物、-、-
クシロハナシノブ	少ない	ナガバツメクサ-カブスゲ群集	指定植物、環：絶滅危惧 II類、道：絶滅危惧II類
ツルニンジン	普通	ナガバツメクサ-カブスゲ群集、 イワノガリヤス群集	-、-、-
エゾノコギリソウ	普通	ナガバツメクサ-カブスゲ群集	指定植物、-、-
エゾゴマナ	少ない	イワノガリヤス-ヨシ群集	-、-、-
クロユリ	普通	ヨシ-スゲ類群集	指定植物、-、 道：準絶滅危惧
ゼンテイカ	普通	ヨシ-スゲ類群集、 イワノガリヤス群集	-、-、-
カキツバタ	少ない	ヤチヤナギ-ムジナスゲ群集	指定植物、 環：準絶滅危惧、-
ヒメカイウ	普通	ヒメカイウ-ヨシ群集、ヨシ群集	指定植物、 環：準絶滅危惧、-
ミズチドリ	普通	ヨシ-スゲ類群集	-、-、-

※田中瑞穂, 1975, 釧路湿原の植生、伊藤浩司・松田行雄, 1992, 植物群落と泥炭層の解析 より編集、種名一部修正。

2) エゾシカの生息状況

○目標設定の考え方（案）

- 環境研究総合推進費でのヘリコプターを用いた個体数調査では、冬期の釧路湿原でのエゾシカ生息密度が平均7.8頭/km²であった。当時、既にエゾシカによる植生への不可逆的な影響が指摘されていたことから、本事業ではこの生息密度より増やさないことを当面の目標とする。

*先行事例：知床国立公園（第3期知床半島エゾシカ管理計画）

1) 植生

- 回復の目標を「1980年代初頭の植生の状態」と設定する。なお、1980年代初頭の植生データが無いなど目標設定が難しい場合には、植生保護柵内の回復過程や先行して回復が見られる地区での過程等を踏まえて適切な目標を設定する。
- 回復の目標や指標の項目等については、モニタリング結果や評価結果等を踏まえつつ必要に応じて見直しを行う。

2) エゾシカ生息密度

- 地区ごとの航空カウント調査におけるエゾシカ発見密度に基づき、目標値（5～10頭/km²）を基準として達成状況を評価する。
- また、2002（H14）シカ年度の航空カウント調査における発見個体数の水準を100として、各シカ年度の同調査でのシカ発見数を「個体数指数」と定義し、経年変化を理解するための一助とする。